

令和7年度 第70回岐阜県PTA研究大会by西濃 実践発表様式

題名：DX化と支援で「PTA活動の未来」を拓く

PTA名：大垣市PTA連合会

はじめに

近年、PTA活動は「活動目的と現状の乖離」「保護者や教員の負担増」、そして「社会の急速な変化への対応」といった、さまざまな課題に直面しています。

私たち大垣市PTA連合会（以下、市P連）は、これらの課題を真摯に受け止め、PTAがより効果的で、誰もが積極的に関わりやすい組織へと進化することを目指し、改革に取り組んでまいりました。

今回、私たちが特に力を入れてきたDX化推進と、各学校PTAへの後方支援事業について、具体的な実践内容とその成果をご報告いたします。

1. 広報のDX化：紙媒体からウェブサイトへ

市P連では、広報紙「ひろば」のデジタル化に着手しました。令和2年度を移行準備期間とし、ウェブサイトの検討を進め、令和3年度より本格運用を開始しました。

<https://sites.google.com/view/ogakicitypta2020/>

(1) 従来の課題

令和元年度まで、広報紙「ひろば」は年に1回、年度末に発行されていました。

この発行サイクルでは、市P連の活動報告がタイムリーに会員の皆様に届かず、実施済みの事業内容をすぐに知ることができないという課題がありました。

年度初めの評議員会で事業計画は承認されるものの、実施結果が分かるのは年度末になってから。これは、情報共有のスピードという点で大きな課題でした。また、作成・印刷にかかる手間とコストも大きな負担でした。



(2) 成果

広報のDX化により、以下の大きな成果を得ることができました。

- ① 広報予算が年間0円に！

Googleサイトを無料で活用することで、専門知識がない市P連役員でも簡単にウェブサイトを構築できました。

これにより、年間約10万円近くかかっていた広報紙の印刷・制作費用を完全に削減。削減できた予算は、後述する「新規事業支援助成金」を創設し、各学校PTA活動への支援に充てることを可能にしました。

② 情報発信のタイムリー化を実現！

従来の年度末発行では難しかった、市Pの事業実施後の迅速な情報提供が可能になりました。会員の皆様は、市Pの活動状況をいつでも、どこからでもリアルタイムに確認できるようになり、情報格差の解消にもつながっています。

2. 定期大会の廃止：時代に即した運営体制へ

市P連は、令和元年度をもって定期大会を廃止するという大きな決断をしました。

(1) 廃止の背景：時代のミスマッチと負担の増大

① 共働き家庭の増加

現代の共働きが主流となる家庭環境では、定期大会のような大規模な集会への参加は、保護者の皆様にとって大きな時間的・精神的負担となっていました。これにより、役員や委員のなり手不足も深刻化していました。

② 活動内容への疑問

各PTAに割り当てられた出席人数を動員することへの負担感や、「参加するメリットが感じられない」、「ウェブサイトで十分」といった、活動内容の形骸化を指摘する声が多数寄せられていました。旧来の方式に固執することなく、現代の多様な家庭環境に合わせた柔軟な運営体制が求められていました。

③ 費用対効果への疑問と財政的制約

定期大会の開催には、会場費、準備にかかる会場設営費用、資料作成費用など、年間で多額のコストが発生していました。これに加え、少子化による会員数の減少は、PTA会費収入の減少に直結しており、その中で大会運営に多大な費用をかけることの費用対効果について、疑問の声が上がっていました。限られた財源を最も効果的に活用するという視点からも、その廃止が適切であると判断しました。

④ 交流ニーズの変化

参加者の声からは、「評議員会の報告よりも、各PTAが抱える課題や役員の決め方、ユニークな取り組みなど、役員同士の情報交換や交流を深めたい」という具体的な要望が強く聞かれるようになりました。

(2) 代替策と効果

定期大会の廃止に伴い、評議員会の内容や市P連の各種情報を、作成したウェブサイトで会員の皆様に公開することで、情報共有の透明性を維持・向上させました。

これにより、負担をかけずに必要な情報を必要な時に得られる環境が整備されました。また、削減できた予算は、「新規事業支援助成金」の財源とすることができます。

3. 新規事業支援助成金：各PTA活動の後方支援

広報のDX化や定期大会廃止で削減された予算を、各PTAの活動支援に活用すべく、「新規事業支援助成金」を創設しました。

(1) 支援内容

市内の各PTAが新たな事業を実施する際、その経費に対し、予算の範囲内で助成金を交付しています。

助成率10/10、助成金上限2万円。

(2) 相乗効果

助成金を交付した事業内容はウェブサイトで公開し、他のPTAが「これは私たちも取り組みたい」、「参考にしたい」と感じられるよう情報共有を促進しています。

これにより、市内のPTA活動全体の活性化と質の向上を目指しています。

4. 市内中学生の進路支援動画の製作：未来を拓くキャリア教育

コロナ禍で、各学校で社会人の方をお呼びしてのキャリア教育を実施できなかったことや、多様化する日本社会において、生徒たちが「社会に出る前に中学時代をどう過ごすのか」といった「自分探しの動画」としても活用できるよう、授業やご自宅で視聴していくため、令和2年度から、定期大会廃止と広報紙のDX化で削減できた予算を活用し、進路支援動画を作成しました。

(1) 概要

この企画は令和2年度よりスタートし、これまでに52名の社会人の皆様にご協力いただきました。中学時代の過ごし方、将来を考え始めたきっかけ、現在の職業についてなどを、生の声で語っていただいている。なお、動画は市P連の



YouTubeチャンネルで市P連会員限定公開となっています。

(2) 文部科学大臣表彰を受賞

この「キャリア教育動画」に関する取り組みは、令和4年度に文部科学大臣表彰を受賞するなど、その教育的価値が高く評価されています。

5. 市P連広報委員長による出張講座：実践的なサポート

広報紙のホームページ化や総会資料のペーパーレス化を検討している各PTAを対象に、市P連広報委員長による出張講座を令和3年度から実施しています。

(1) 講座内容

広報委員長が各学校や地域に直接出向き、PTA会員の皆様と実際にパソコンを操作しながら、ウェブサイト作成方法やペーパーレス化のノウハウを実践的に指導します。

(2) 利用状況

現在までに市内28校のうち10校がこの出張講座を利用しておおり、順次、各PTAでのDX化が進んでいます。



(3) 継続的な支援

講座は「初期編」、「課題解決編」など、各PTAのニーズに合わせて何度も利用可能です。これにより、各PTAが無理なくDX化を進められるよう、継続的なサポートを提供しています。

まとめ

市P連は、これまでご紹介したDX化や新規事業支援、実践的な出張講座の実施を通じて、PTA活動の「負担軽減」と「魅力向上」の両立を目指してまいりました。私たちは、これらの取り組みが、各学校PTA、そして大垣市全体の子どもたちの豊かな成長につながると確信しています。

私たちの実践は、PTAがこれからも持続可能で、誰もが無理なく、そして楽しく参加できる組織であり続けるための重要な一歩です。今後は、他の先進的なPTA連合会の取り組みも積極的に学びながら、地域や学校、保護者の皆様との連携をさらに強化し、「子どもたちの健やかな成長のために何ができるか」を常に問い合わせ続けます。

市P連は、保護者、学校、地域が一体となって子どもたちの「できた！」という成長を応援し、彼らが未来を拓く力を育んでいけるよう、これからも進化し続けてまいります。